

Ⅱ 調査結果の概要

発 育 状 態

Ⅰ 身長・体重の平均値

令和7年度及び令和6年度の幼稚園、小学校、中学校、高等学校における幼児、児童及び生徒の身長・体重の平均値を年齢別にみると、表1のとおりである。

表1 年齢別、身長・体重の平均値

		身 長 (cm)				体 重 (kg)			
		男		女		男		女	
		R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6
幼稚園	5歳	110.2	110.6	109.2	109.7	19.2	19.2	18.8	19.0
小学校	6歳	116.6	116.5	115.3	115.8	21.6	21.3	20.9	20.8
	7歳	122.6	122.4	121.2	121.7	24.4	24.4	23.5	24.0
	8歳	128.3	128.5	127.5	127.9	27.9	27.7	27.0	27.2
	9歳	134.2	133.6	133.7	133.5	31.2	31.0	30.5	30.3
	10歳	139.2	139.4	140.7	140.0	34.8	35.0	34.8	34.6
	11歳	145.3	145.9	147.1	147.0	39.4	39.0	40.0	39.6
中学校	12歳	153.9	153.1	151.4	152.2	45.0	44.5	44.0	45.4
	13歳	160.7	160.3	155.0	154.8	50.3	49.8	48.3	47.9
	14歳	165.6	165.8	156.2	155.9	54.8	55.6	49.9	50.4
高等学校	15歳	168.5	169.5	157.0	156.9	60.4	60.1	52.7	51.7
	16歳	169.2	169.8	157.2	156.9	61.4	61.5	51.8	52.1
	17歳	170.5	170.5	157.3	157.4	63.1	63.4	52.8	53.2

(1) 身長

男子の身長は、5歳で110.2cm、11歳で145.3cm、14歳で165.6cm、17歳で170.5cmとなっており、6歳、7歳、9歳、12歳、13歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は11歳と12歳の間(8.6cm)が最も大きく、15歳と16歳の間(0.7cm)が最も小さい。

女子の身長は、5歳で109.2cm、11歳で147.1cm、14歳で156.2cm、17歳で157.3cmとなっており、9歳～11歳、13歳～16歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は9歳と10歳の間(7.0cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.1cm)が最も小さい。

10歳、11歳で女子の身長は、男子の身長を上回っている。

(2) 体重

男子の体重は、5歳で19.2kg、11歳で39.4kg、14歳で54.8kg、17歳で63.1kgとなっており、6歳、8歳、9歳、11歳～13歳、15歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は11歳と12歳、14歳と15歳の間(5.6kg)が最も大きく、15歳と16歳の間(1.0kg)が最も小さい。

女子の体重は、5歳で18.8kg、11歳で40.0kg、14歳で49.9kg、17歳で52.8kgとなっており、6歳、9歳～11歳、13歳、15歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は10歳と11歳の間(5.2kg)が最も大きく、15歳と16歳の間(-0.9kg)が最も小さい。

11歳で女子の体重は、男子の体重を上回っている。

2 身長・体重の推移

(1) 身長の推移

① 身長の推移をみると、表2のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。

② 親の世代である約30年前(平成7年度)と比較すると、表2の年齢区分では、男子の身長は、6歳で同値、11歳で1.0cm、14歳で1.1cm、17歳で0.4cm高くなっている。

女子の身長は、11歳で0.8cm高く、6歳で0.3cm、14歳で0.2cm、17歳で0.3cm低くなっている。

③ 表2の年齢区分で全国と比較すると、令和7年度では、男子の身長は、

11歳で0.8cm、14歳で0.5cm、17歳で0.1cm低くなっている。

女子の身長は、6歳で0.3cm、11歳で0.3cm、14歳で0.2cm、17歳で0.6cm低くなっている。

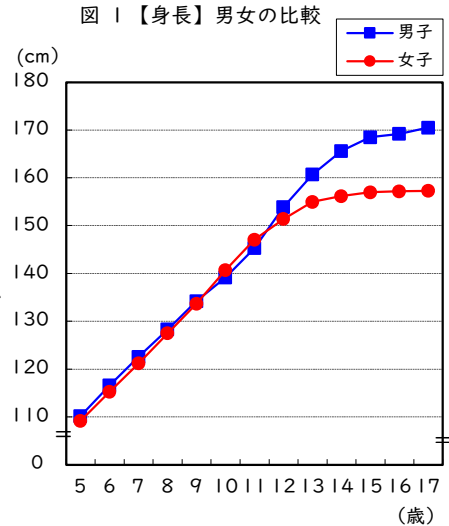
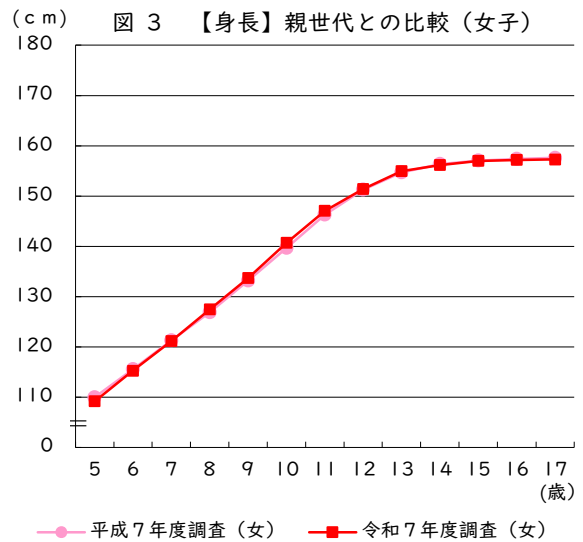
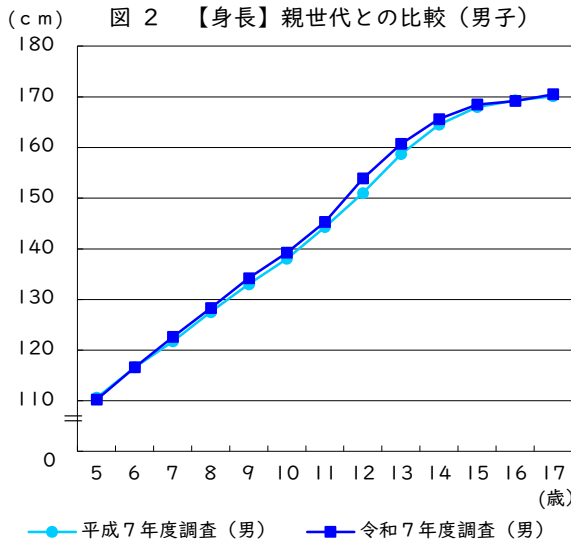


表2 身長の推移

(単位：cm)

区分	佐賀県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成7年度	116.6	144.3	164.5	170.1	115.6	146.3	156.4	157.6
平成17	116.5	144.8	164.4	170.2	116.0	147.6	156.3	158.1
27	116.5	144.9	165.2	171.0	115.9	146.9	156.2	157.4
令和2	116.6	145.2	165.1	169.5	116.1	147.3	155.8	156.5
3	116.5	144.9	165.4	170.8	115.5	147.0	155.9	157.4
4	116.9	145.3	165.1	170.1	115.8	147.2	156.1	157.3
5	116.8	145.7	165.6	170.9	115.6	147.8	155.9	157.3
6	116.5	145.9	165.8	170.5	115.8	147.0	155.9	157.4
7	116.6	145.3	165.6	170.5	115.3	147.1	156.2	157.3
区分	全国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成7年度	116.8	144.9	165.1	170.8	116.0	146.7	156.7	158.0
平成17	116.6	145.1	165.4	170.8	115.8	146.9	156.8	158.0
27	116.5	145.2	165.1	170.7	115.5	146.7	156.5	157.9
令和2	117.5	146.6	166.1	170.7	116.7	148.0	156.7	157.9
3	116.7	145.9	165.7	170.8	115.8	147.3	156.5	158.0
4	117.0	146.1	165.8	170.7	116.0	147.9	156.5	158.0
5	116.9	146.2	166.0	170.7	116.0	147.9	156.4	158.0
6	116.7	146.0	166.1	170.8	115.8	147.8	156.4	158.0
7	116.6	146.1	166.1	170.6	115.6	147.4	156.4	157.9

※令和2年度から令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、他の年度と測定時期が異なっているため、過去の数値と単純比較することはできない。



④ 年間発育量

平成19年度生まれ（令和7年度17歳）の年間発育量をみると、表3のとおり男子では12歳時、女子では10歳時に最大の発育量を示しており、最大発育量を示す年齢は、女子の方が男子に比べ2歳早くなっている。

また、この発育量を親の世代（平成7年度17歳）と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、親の世代・子の世代ともに12歳で、5歳、7歳、8歳、10歳、11歳、12歳、16歳の各歳時で親の世代を上回っている。

女子については、発育量が最大となる時期は親の世代より1歳遅く、5歳、6歳、8歳、11歳、14歳の各歳時で、親の世代を上回っている。

表3 【身長】平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較

(単位: cm)

区分	男子		女子	
	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)
総発育量	60.3	—	47.8	—
幼稚園	5歳時	6.3	5.9	6.1
小学校	6歳時	5.6	5.9	5.6
	7	5.6	5.4	5.9
	8	5.5	4.7	6.2
	9	4.7	5.6	6.6
	10	7.3	6.2	6.7
中学校	11	6.7	6.1	5.0
	12歳時	8.1	7.8	2.7
	13	5.1	6.5	1.7
高等学校	14	3.2	3.2	1.3
	15歳時	1.5	2.5	-0.5
	16	0.7	0.2	0.4

注) 年間発育量とは、例えば、平成19年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成26年度調査6歳の者の身長から平成25年度調査5歳の者の身長を引いたものである。

図4 【身長】平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較（男子）

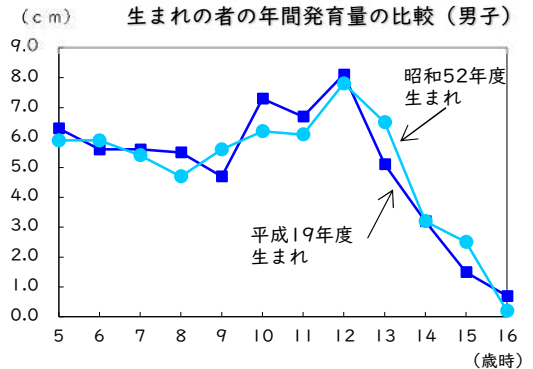
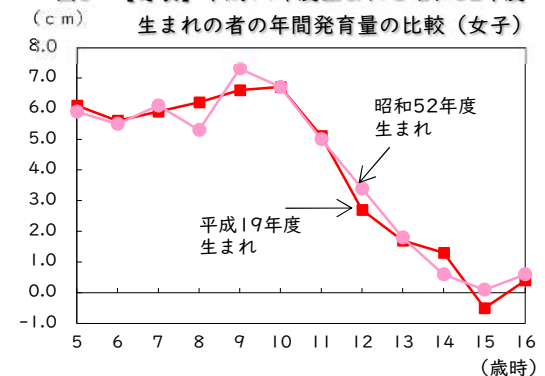
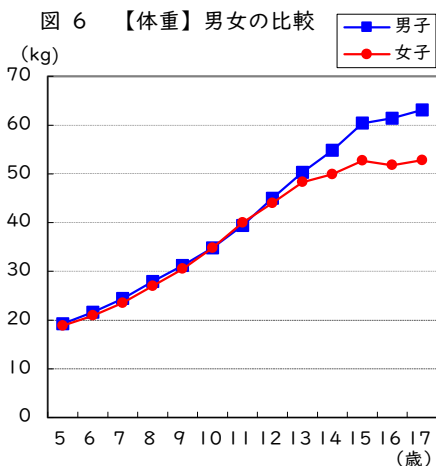


図5 【身長】平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較（女子）



(2) 体重の推移

- ① 体重の推移をみると、表4のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。
- ② 親の世代である、約30年前（平成7年度）と比較すると、表4の年齢区分では、男子の体重は、6歳で同値、11歳で1.8kg、14歳で1.6kg、17歳で0.9kg重くなっている。
女子の体重は、6歳で0.2kg、11歳で1.1kg重く、14歳で0.3kg軽く、17歳で同値である。



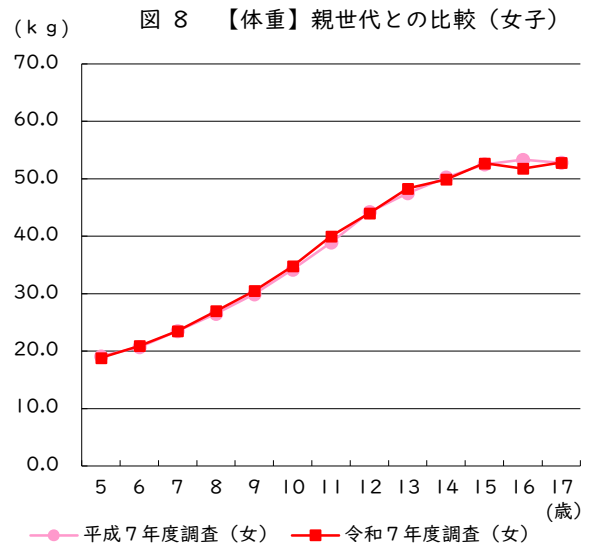
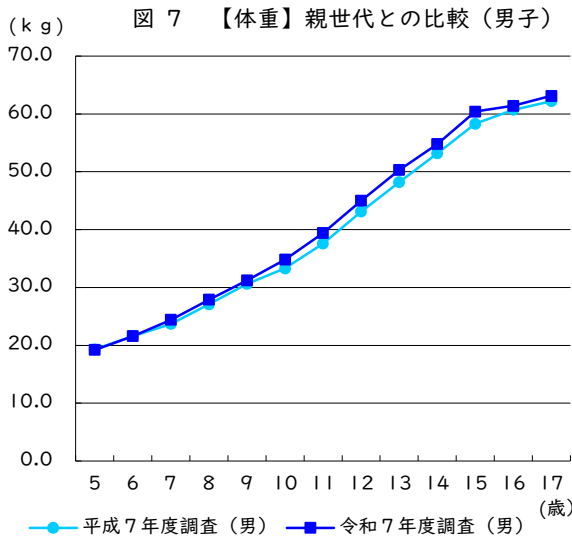
- ③ 表4の年齢区分で全国と比較すると、令和7年度では、男子の体重は、6歳で0.2kg重く、11歳と14歳で、それぞれ0.2kg軽く、17歳で0.9kg重くなっている。
女子の体重は、6歳で0.1kg軽く、11歳と14歳で、それぞれ0.2kg、17歳で0.3kg重くなっている。

表4 体重の推移

(単位：kg)

区分	佐賀県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成7年度	21.6	37.6	53.2	62.2	20.7	38.9	50.2	52.8
平成17	21.6	38.7	54.5	63.4	21.3	40.1	50.8	54.5
27	21.4	37.8	54.2	63.0	21.2	39.2	50.4	54.3
令和2	21.7	38.7	54.9	62.2	21.4	40.0	50.6	52.8
3	21.6	38.6	54.4	62.2	21.2	39.9	50.2	52.9
4	21.8	39.2	54.6	62.9	21.3	40.4	50.5	52.8
5	21.7	39.4	54.8	63.9	21.2	40.1	50.4	53.3
6	21.3	39.0	55.6	63.4	20.8	39.6	50.4	53.2
7	21.6	39.4	54.8	63.1	20.9	40.0	49.9	52.8
区分	全国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成7年度	21.7	38.6	54.7	63.0	21.3	39.6	50.5	53.3
平成17	21.6	39.1	55.3	63.8	21.1	39.5	50.8	53.7
27	21.3	38.2	53.9	62.5	20.8	38.8	49.9	53.0
令和2	22.0	40.4	55.2	62.6	21.5	40.3	50.2	52.3
3	21.7	39.6	54.7	62.4	21.2	39.8	50.0	52.5
4	21.8	40.0	55.0	62.5	21.3	40.5	49.9	52.5
5	21.6	39.9	54.9	62.0	21.2	40.2	49.8	52.6
6	21.4	39.6	55.0	62.2	21.0	40.1	49.6	52.5
7	21.4	39.6	55.0	62.2	21.0	39.8	49.7	52.5

※令和2年度から令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、他の年度と測定時期が異なっているため、過去の数値と単純比較することはできない。



④ 年間発育量

平成19年度生まれ（令和7年度17歳）の年間発育量をみると、表5のとおり、男子・女子ともに10歳時に最大の発育量を示している。

また、この発育量を親の世代（平成7年度17歳）と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、親の世代より2歳早く、5歳、8歳、10歳、16歳の各歳時で親の世代を上回っている。

女子については、発育量が最大となる時期は親より1歳早く、5歳、6歳、7歳、9歳、10歳、11歳、14歳、16歳の各歳時で親の世代を上回っている。

表5 【体重】平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較

(単位: kg)

区分	男子		女子	
	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)
総発育量	44.3	—	34.1	—
幼稚園				
5歳時	2.7	1.8	2.3	1.9
小学校				
6歳時	2.6	2.6	2.4	2.3
7	2.7	2.8	3.2	2.9
8	3.5	2.9	3.3	3.4
9	3.4	3.4	4.5	4.3
10	5.8	4.5	5.5	4.8
11	4.8	4.9	5.3	5.1
中学校				
12歳時	5.7	6.4	2.6	3.6
13	4.6	5.1	2.7	3.3
14	4.1	4.9	1.8	1.4
高等学校				
15歳時	2.8	3.1	-0.2	1.7
16	1.6	0.9	0.7	-0.4

注) 年間発育量とは、例えば、平成19年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成26年度調査6歳の者の身長から平成25年度調査5歳の者の体重を引いたものである。

図9 【体重】平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較（男子）

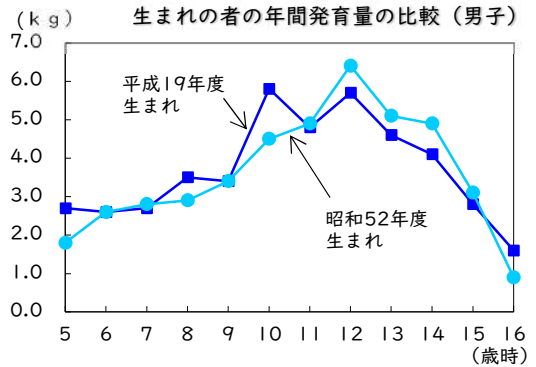
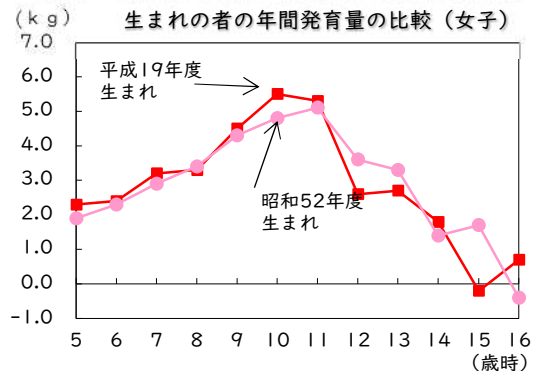


図10 【体重】平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較（女子）



健康状態

1 疾病・異常の被患率状況

疾病・異常の被患率を段階別にみると、表6のとおりである。

疾病・異常の被患率の中で高いものは、裸眼視力1.0未満で、高等学校72.1%、中学校62.4%、むし歯(う歯)は、小学校41.6%、高等学校37.2%、幼稚園26.9%、中学校24.2%の順となっている。

表6 疾病・異常の被患率

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校			
90%以上							
80%以上～90%未満							
70%以上～80%未満				裸眼視力1.0未満 72.1			
60%以上～70%未満			裸眼視力1.0未満 62.4				
50%以上～60%未満							
40%以上～50%未満		むし歯(う歯) 41.6					
30%以上～40%未満		裸眼視力1.0未満 37.0		むし歯(う歯) 37.2			
20%以上～30%未満	むし歯(う歯) 26.9		むし歯(う歯) 24.2				
10%以上～20%未満		歯・口腔のその他の疾病・異常 鼻・副鼻腔疾患 10.6	12.2				
1%以上 ～ 10%未満	8%以上～10%未満						
	6%以上～8%未満		その他の疾病・異常 耳疾患 6.6	7.1 7.7 6.2	7.9 7.7 6.2	歯列・咬合 その他の疾病・異常 6.4 6.4	
	4%以上 ～ 6%未満	歯列・咬合 歯垢の状態 5.4 4.2	眼の疾病・異常 4.5	4.5	歯列・咬合 耳疾患 歯肉の状態 5.4 4.6 4.2	5.4 4.6 4.2	鼻・副鼻腔疾患 歯垢の状態 4.6 4.0
	2%以上 ～ 4%未満	歯・口腔のその他の疾病・異常 その他の疾病・異常 2.8 2.4	歯列・咬合 心電図異常 歯垢の状態 ぜん息 2.0	3.3 2.5 2.0 2.0	3.7 3.3 2.6 2.5 2.4 2.2	3.7 3.3 2.6 2.5 2.4 2.2	心電図異常 歯・口腔のその他の疾病・異常 歯肉の状態 栄養状態 アトピー性皮膚炎 3.5 3.2 2.6 2.5 2.0
	1%以上 ～ 2%未満	アトピー性皮膚炎 ぜん息 1.9 1.1	栄養状態 アトピー性皮膚炎 歯肉の状態 1.1	1.7 1.3 1.1	蛋白検出の者 栄養状態 心臓の疾病・異常 1.6 1.1 1.1	1.6 1.1 1.1	眼の疾病・異常 耳疾患 蛋白検出の者 ぜん息 1.9 1.6 1.3 1.3
0.1%以上 ～ 1%未満	0.5%以上 ～ 1%未満	鼻・副鼻腔疾患 栄養状態 その他の皮膚疾患 0.7 0.6 0.6	難聴 せき柱の状態 その他の皮膚疾患 口腔咽喉頭疾患・異常 心臓の疾病・異常 0.7 0.6 0.6 0.5 0.5	0.7 0.6 0.6 0.5	四肢の状態 0.8	0.8	せき柱の状態 顎関節 心臓の疾病・異常 0.9 0.8 0.6
	0.1%以上 ～ 0.5%未満	心臓の疾病・異常 耳疾患 言語障害 胸郭の状態 四肢の状態 蛋白検出の者 0.4 0.3 0.2 0.1 0.1 0.1	四肢の状態 蛋白検出の者 腎臓疾患 言語障害 顎関節 胸郭の状態 0.4 0.4 0.2 0.2 0.1 0.1	0.4 0.4 0.2 0.2 0.1 0.1	腎臓疾患 難聴 顎関節 その他の皮膚疾患 口腔咽喉頭疾患・異常 胸郭の状態 四肢の状態 尿糖検出の者 言語障害 0.3 0.2 0.2 0.2 0.1 0.1 0.1 0.1	0.3 0.2 0.2 0.2 0.1 0.1 0.1 0.1	難聴 その他の皮膚疾患 腎臓疾患 口腔咽喉頭疾患・異常 胸郭の状態 四肢の状態 尿糖検出の者 言語障害 0.3 0.3 0.2 0.1 0.1 0.1 0.1
0.1%未満	顎関節 0.0	結核の精密検査対象者 尿糖検出の者 0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0		

注) 1 「口腔咽喉疾患・異常」とは、口腔の疾患・異常、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常等のある者をいう。

2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石等のある者をいう。

3 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

5 「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常の者である。

2 主な疾病・異常の推移

疾病・異常のうち主なものの推移は、表7のとおりである。

表7 主な疾病・異常の推移

(単位：%)

	区 分	裸 眼 視 力 1 ・ 0 未 満 の 者	耳 疾 患	鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患	む し 歯 (う 歯)	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出 の 者	ぜ ん 息
幼 稚 園	平成27年度	X	1.8	1.8	46.5	…	-	0.9
	令和3	X	1.1	2.9	X	…	1.2	1.7
	4	X	2.1	2.0	36.0	…	0.7	0.9
	5	X	1.7	2.6	28.2	…	0.4	1.9
	6	14.2	5.5	4.0	28.2	…	0.6	0.6
	7	X	0.3	0.7	26.9	…	0.1	1.1
小 学 校	平成27年度	33.4	6.4	11.9	58.3	4.3	0.5	3.3
	令和3	39.0	6.6	9.7	49.9	3.6	0.2	3.3
	4	40.5	5.9	8.3	46.2	6.2	0.3	2.5
	5	39.4	6.2	10.2	42.9	3.4	0.3	2.7
	6	36.9	6.5	13.7	43.1	4.2	0.3	2.7
	7	37.0	6.6	10.6	41.6	2.5	0.4	2.0
中 学 校	平成27年度	52.0	4.8	12.3	36.0	6.3	2.8	2.0
	令和3	66.3	5.5	9.3	28.0	3.2	1.3	2.0
	4	X	5.3	8.3	28.8	2.8	1.3	2.0
	5	62.0	4.8	8.6	26.7	3.5	1.2	2.1
	6	65.0	4.5	8.2	23.9	3.7	1.6	1.5
	7	62.4	4.6	6.2	24.2	3.3	1.6	2.2
高 等 学 校	平成27年度	X	1.8	8.0	55.0	6.3	3.4	1.5
	令和3	X	1.9	8.5	43.1	3.1	1.1	1.4
	4	68.7	2.5	6.4	41.6	2.2	1.7	1.3
	5	X	2.3	6.1	42.2	4.1	1.0	1.7
	6	X	2.1	6.5	34.6	4.5	1.4	1.3
	7	72.1	1.6	4.6	37.2	3.5	1.3	1.3

(1) むし歯(う歯)

むし歯(う歯)の者を、「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分すると、表8のとおりである。

むし歯(う歯)の被患率は、幼稚園26.9%(全国19.4%)小学校41.6%(全国30.8%)、中学校24.2%(全国25.2%)、高等学校37.2%(全国32.8%)となっており、幼稚園と小学校と高等学校で全国平均を上回っている。

10年前(平成27年度)と比較すると、幼稚園では19.6ポイント、小学校では16.7ポイント、中学校では11.8ポイント、高等学校では17.8ポイント低くなっている。

表8 むし歯(う歯)の処置完了状況等の推移

(単位：%)

		年 度						全 国 (R7)
		H27	R 3	4	5	6	7	
幼 稚 園	計	46.5	X	36.0	28.2	28.2	26.9	19.4
	処置完了者	17.1	X	15.6	11.8	9.7	12.1	7.0
	未処置歯のある者	29.4	X	20.4	16.4	18.5	14.9	12.5
小 学 校	計	58.3	49.9	46.2	42.9	43.1	41.6	30.8
	処置完了者	27.1	23.6	20.1	19.4	19.8	19.9	15.1
	未処置歯のある者	31.2	26.3	26.1	23.5	23.2	21.7	15.8
中 学 校	計	36.0	28.0	28.8	26.7	23.9	24.2	25.2
	処置完了者	19.9	15.7	15.1	15.3	14.5	13.2	15.2
	未処置歯のある者	16.1	12.4	13.7	11.4	9.4	11.0	10.1
高 等 学 校	計	55.0	43.1	41.6	42.2	34.6	37.2	32.8
	処置完了者	27.9	22.8	23.0	25.3	21.0	23.1	20.7
	未処置歯のある者	27.1	20.3	18.6	16.9	13.6	14.2	12.1

(2) 裸眼視力1.0未満の者

裸眼視力1.0未満の者を、視力で区分すると表9のとおりである。

裸眼視力1.0未満の者の割合は小学校37.0%（全国36.1%）、中学校62.4%（全国59.4%）、高等学校72.1%（全国71.5%）となっており、小学校と中学校と高等学校で全国平均を上回っている。

10年前（平成27年度）と比較すると、小学校では3.6ポイント、中学校では10.4ポイント高くなっている。

※幼稚園は数値が秘匿のため、全国及び10年前との比較はできない。

※高等学校は10年前の数値が秘匿のため、比較はできない。

表9 裸眼視力1.0未満の者の推移

（単位：％）

		年 度						全 国 (R7)
		H27	R3	4	5	6	7	
幼 稚 園	計	X	X	X	X	14.2	X	23.9
	1.0未満0.7以上	X	X	X	X	11.7	X	17.4
	0.7未満0.3以上	X	X	X	X	2.5	X	5.8
	0.3未満	X	X	X	X	-	X	0.7
小 学 校	計	33.4	39.0	40.5	39.4	36.9	37.0	36.1
	1.0未満0.7以上	12.6	13.1	13.7	13.0	12.7	12.9	12.2
	0.7未満0.3以上	12.3	13.7	14.3	13.6	13.1	13.2	13.7
	0.3未満	8.6	12.1	12.6	12.8	11.1	10.9	10.1
中 学 校	計	52.0	66.3	X	62.0	65.0	62.4	59.4
	1.0未満0.7以上	10.4	13.7	X	10.0	11.0	13.3	13.3
	0.7未満0.3以上	15.1	17.7	X	18.9	17.5	17.3	19.3
	0.3未満	26.5	34.9	X	33.1	36.5	31.8	26.8
高 等 学 校	計	X	X	68.7	X	X	72.1	71.5
	1.0未満0.7以上	X	X	4.5	X	X	6.9	11.4
	0.7未満0.3以上	X	X	21.6	X	X	10.3	17.8
	0.3未満	X	X	42.6	X	X	55.0	42.4

(3) 心電図異常

小学校、中学校及び高等学校の各第1学年において、心電図検査の異常を調査した。
各学校段階の心電図異常の割合は、表10のとおりである。

表10 心電図異常の推移

(単位：%)

区 分	佐 賀 県					全 国				
	R3	4	5	6	7	R3	4	5	6	7
小学校1年	3.6	6.2	3.4	4.2	2.5	2.5	2.6	2.4	2.6	2.5
中学校1年	3.2	2.8	3.5	3.7	3.3	3.1	3.2	3.2	3.0	3.4
高等学校1年	3.1	2.2	4.1	4.5	3.5	3.2	3.0	3.1	3.1	3.3